



第 6 次 白老町総合計画 (素案)

共に築く希望の未来
しあわせ感じる元気まち

— 概 要 版 —

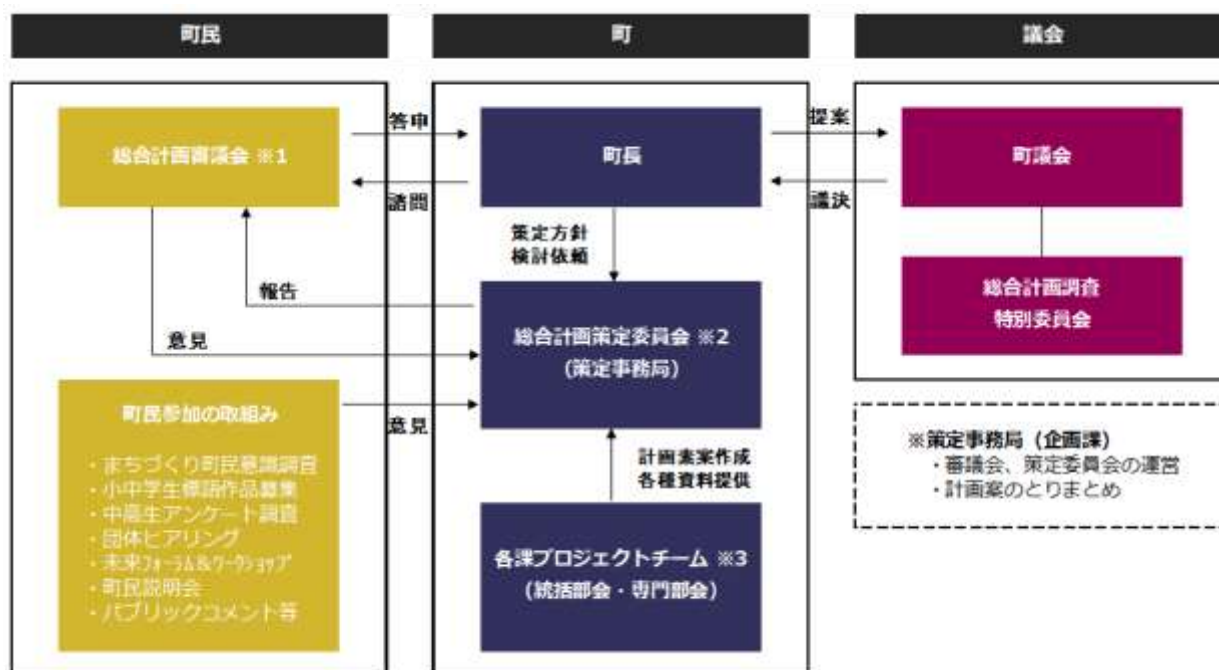
令和 2 年 1 月
白 老 町

策定経過・体制

◆ これまでの策定経過と今後の予定

年月	審議会・策定委員会	町民参加	議会・行政
2019年 4月～12月	<ul style="list-style-type: none"> 策定委員会委員の決定 策定方針の決定 第1～3回策定委員会 審議会委員の決定 審議会への諮問 第1～8回審議会 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり町民意識調査 中学生アンケート 小中学生標語作品募集 団体ヒアリング 高校生アンケート 未来フォーラム&まちづくりワークショップ 広報・ホームページによる策定経過報告 	<ul style="list-style-type: none"> 職員説明会 理事者説明 議会総務文教常任委員会 第1～5回各課PT統括部会 第1～5回各課PT専門部会
2020年 1月～6月	<ul style="list-style-type: none"> 第4回策定委員会 第9回審議会 審議会からの答申 	<ul style="list-style-type: none"> 町民説明会 パブリックコメント 	<ul style="list-style-type: none"> 職員説明会 理事者説明 議会全員協議会 議会3月会議(提案) 議会特別委員会 議会6月会議(決定)

◆ 策定体制



【主な役割】

■ 総合計画審議会(※1)

役割:町長の諮問に応じ、町の総合計画に関する事項について調査及び審議を行い、意見を答申する

構成:公募及び町長の指名により、10名の委員で構成する

■ 総合計画策定委員会(※2)

役割:町の総合計画の策定過程及び計画案について、総括・調整を図る

構成:副町長、教育長、庁内の課長級職員及び学識経験者をもって構成する

■ 各課プロジェクトチーム(※3)

役割:各分野における諸課題等を整理し、次期総合計画(基本計画)の素案の策定等を行う

構成:課長職及びグループリーダー級の職員で構成する

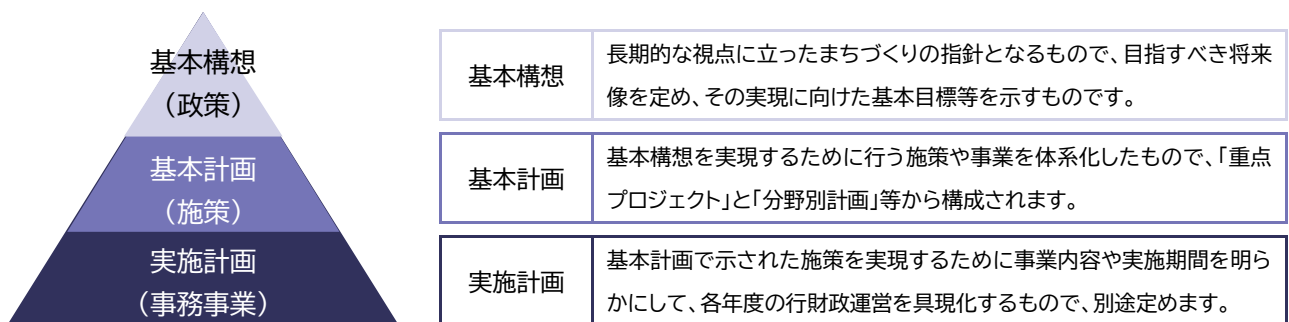
総論

◆ 総合計画とは

- 総合計画は、将来のまちの姿やまちづくりの基本的な方向性を示し、それを実現するための手法を定めたものであり、まちづくりの最上位に位置付けられる計画です。
- この計画は、「まちづくりの羅針盤」、「まちづくりを行うための活動指針」、「まちづくりの意思を町外に示す発信機能体」としての3つの役割を担います。

◆ 計画の内容について

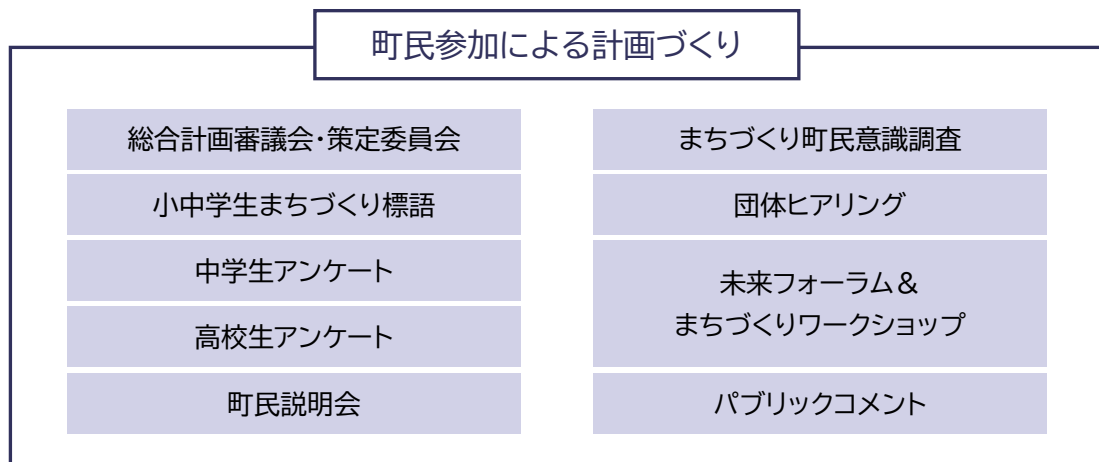
- 第6次総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成し、その期間は2020年（令和2年度）から2027年度（令和9年度）の8年間とします。



- 総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略との整合性を図りながら、人口減少対策や地方創生に資する取り組みを連携させ、重点的に取り組みます。
- 基本計画及び実施計画については、PDCAサイクルに基づく進行管理を行い、計画の実効性を高め、効率的に推進していきます。なお、基本計画は4年で見直しを実施し、実施計画は3か年度を計画期間としたローリング方式で毎年見直しを行います。

◆ 計画の策定について

- 総合計画は8年間の長期計画であるため、社会の潮流やまちの動向、特に人口減少下におけるまちの持続可能性を意識しながら、長期的・大局的な視点をもって策定しました。
- 今後のまちづくりの課題や方向性を町民の皆様と共有するため、総合計画の策定にあたっては、幅広い世代の方々から意見を聴取し、町民参加による計画づくりに努めてきました。



◆ まちづくりに対する町民の声

小中学生まちづくり標語(407 作品)

【最優秀賞】

- 奏でよう未来 豊かな心で 白老町
- つくろうよ 協力し合い 支え合い 思いがあふれる白老町

中学生アンケート(99 名・回答率 91.7%)

- 町への愛着度が高く、住みやすいとの意見が多くあげられた。郷土愛の醸成と雇用の場の創出が、中学生世代に求められている。

高校生アンケート(197 名・回答率 96.6%)

- 中学生と比較して愛着度が低く、ふるさと学習等による郷土愛の醸成が必要である。町外の学生からはアイヌ文化や白老牛が広く認知されている傾向にある。

町民意識調査(580 名・回答率 29%)

- 「高齢化しても住み続けられるまちづくり」、「若者・子育て世代の移住促進」が今後取り組むべき重点施策としてあげられた。

顧客満足度分析(CS分析)

- 住み続けたいまちづくりの実現には、「子育て・教育環境の充実」、「健全な行財政運営」、「公共交通の充実」、「快適で安全な住環境づくり」が必要である。

未来フォーラム&まちづくりWS(参加者 61 名)

- 日常生活における足の確保への不安感
- 空き家・空き地の増加による防災・防犯上の不安の高まり
- 高齢者に対する在宅医療の充実
- 子育て世代に対する包括的な支援体制の構築
- 児童生徒の減少に伴う、部活動等の停滞
- 若者への魅力ある雇用の場の創出、担い手不足の深刻化
- 地域資源の磨き上げ、周遊性向上に資する取り組みの強化
- 地域コミュニティの活性化、若い世代の参画促進
- 身の丈にあった健全な財政運営 など

団体ヒアリング(8 団体)

- 子育てママ
他町と比べ、子育て支援サービスの質が高く、満足度も高い。緊急時の医療体制や子どもの遊べる場の少なさ等が課題。
- 外国人定住者
多言語対応、特に災害時の情報発信のあり方について不安を感じる。
- 若手事業者・経営者
まちの衰退に対する薄い危機感や担い手不足が課題。
- 役場若手職員
日常生活における地域との関わりの希薄さが課題。
- 移住者
移住希望者・予定者に対するまちの情報発信の弱さが課題。
- 一次産業(漁業)
漁獲量の減少に伴う今後の漁業のあり方について不安を感じる。
- 一次産業(畜産業)
白老牛の更なるブランド化が課題。
- 町内会
役員のなり手不足、若い世代の加入率の低さ等、持続可能な町内会運営のあり方が課題。



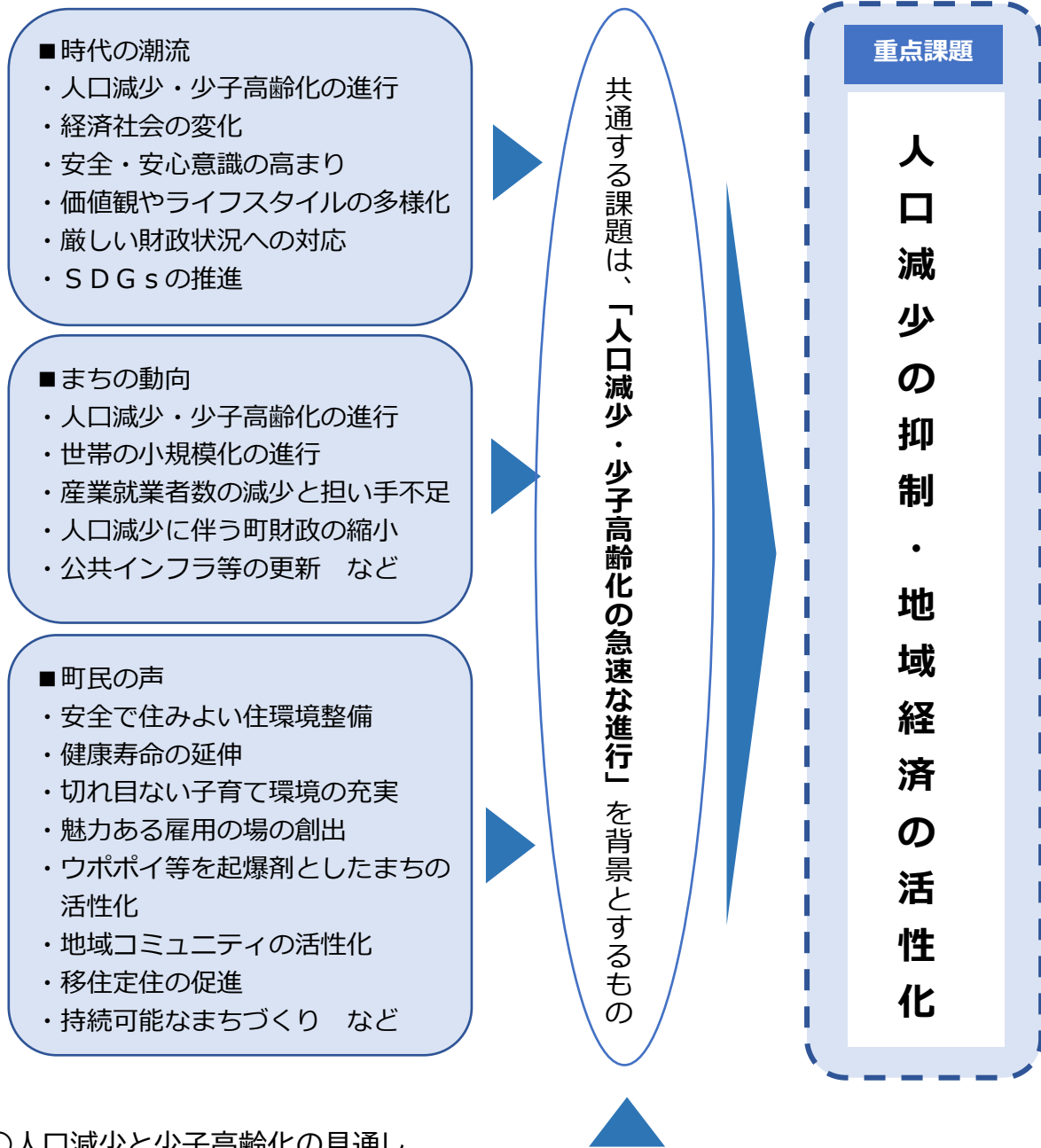
団体ヒアリング



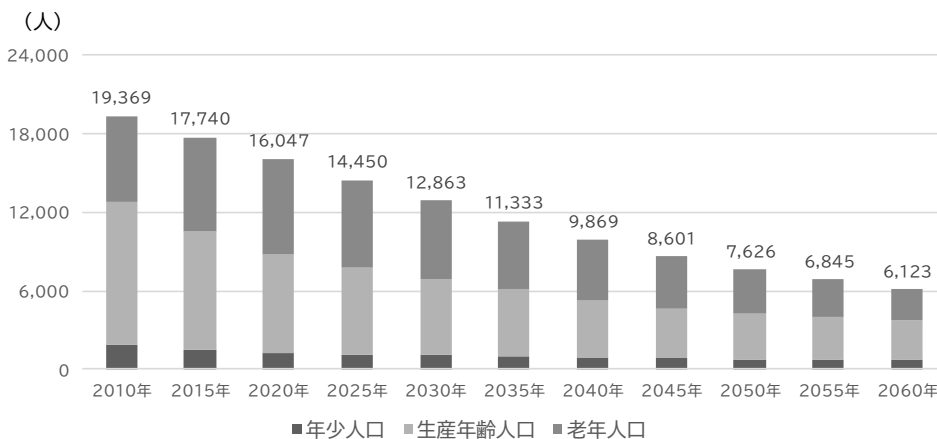
まちづくりWS

◆ まちづくりの重点課題

○計画策定の背景となる時代の潮流や、まちの動向、町民の声から、これからのまちづくりにおける重点課題を整理しました。



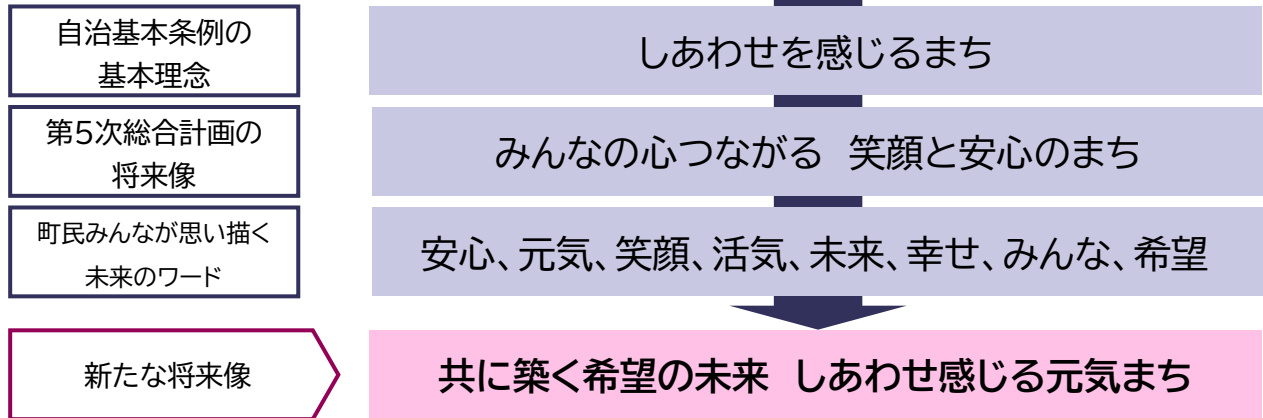
○人口減少と少子高齢化の見通し



基本構想

◆ まちの将来像

○まちの将来像は、町民意向(町民参加プロセス)による本町のイメージや、自治基本条例の基本理念、第5次総合計画からの継続性を勘案し、今後のまちづくりに込めた思いを以下のとおり表現しました。



社会の成熟化に伴うライフスタイルや価値観の多様化をはじめ、人口減少、少子高齢社会など、かつて経験したことがない時代を迎え、私たちは、時代の大きな転換期におかれています。このような状況において、将来にわたりまちを持続的に発展させていくためには、人と人のつながりを大切にしながら、みんなで協力し、共にまちを創り上げていくことが大切です。これからの未来への道は、決して平坦なものではありません。しかし、「みんな」で知恵を出し合い、力を合わせて、「築いて」いくことで、その先には、「希望」にあふれた輝かしい「未来」が待っているものと信じています。

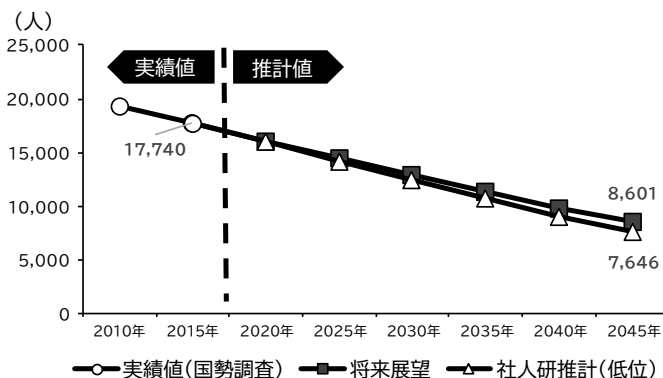
“オールしらい”で未来創造に向けた歩みを進め、町民みんなが「元気」に満ちあふれ、日々の暮らしの中で「しあわせ」を実感できるまちづくりをめざしていきます。

◆ 将来目標人口

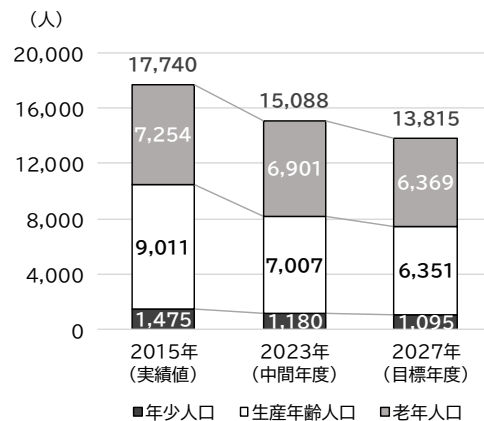
○「白老町人口ビジョン(2060年まで将来推計人口を示したもの)」における将来展望をもとに、8年後の将来目標人口を次のとおり設定しました。

2027年(令和9年) 13,815人

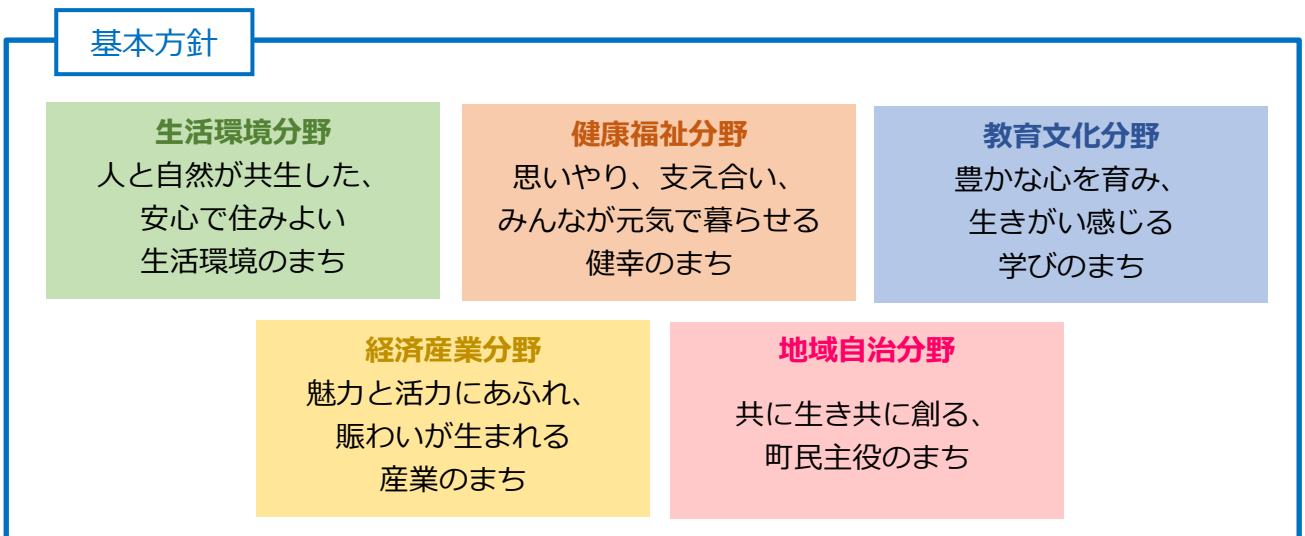
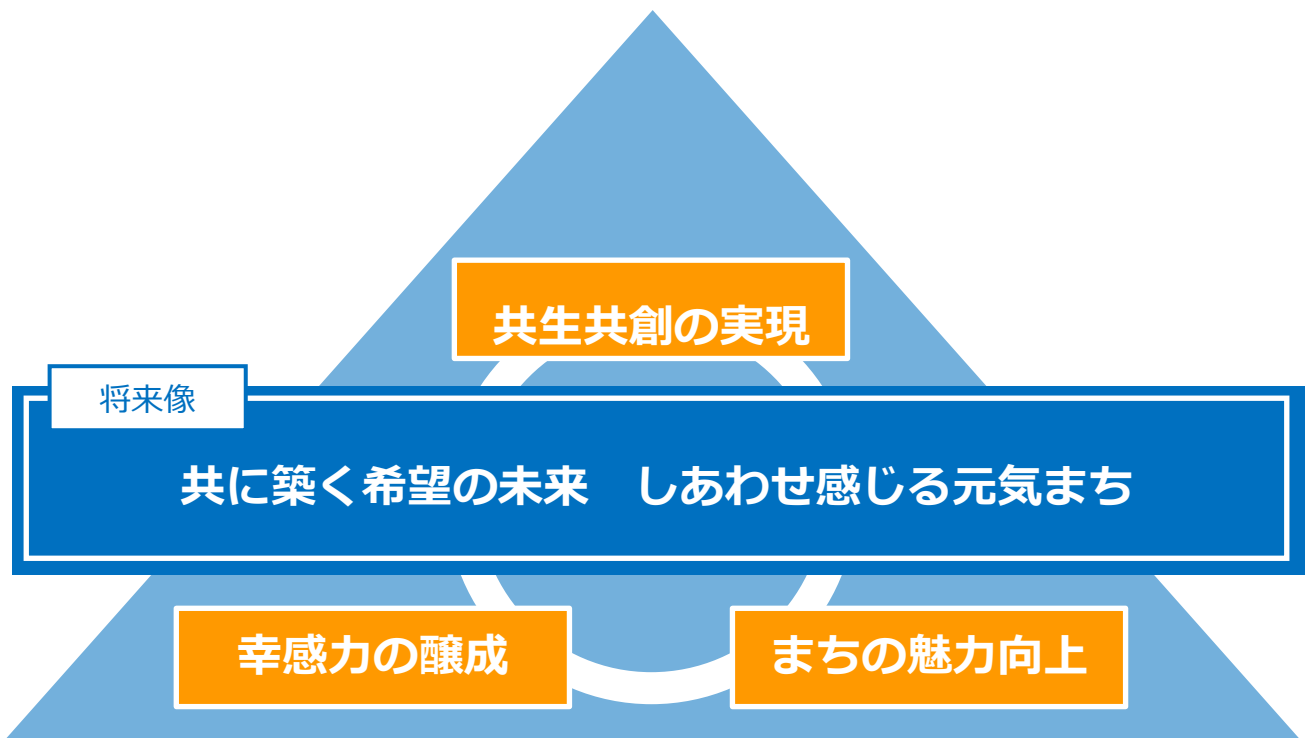
■ 将来人口の見通し



■ 計画期間の目標人口



◆ 基本構想の体系



基本計画

◆ 基本計画の体系

将来像

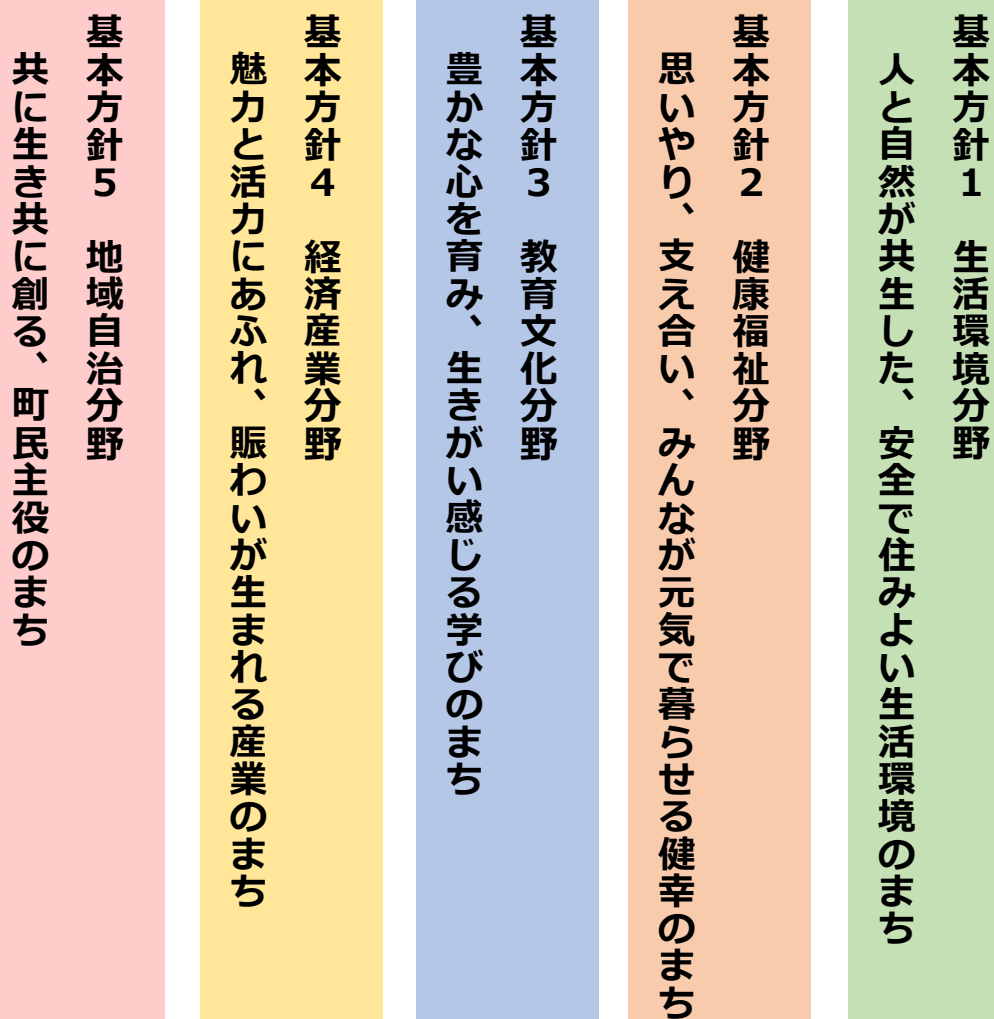
共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち

2つの重点プロジェクト

人口減少抑制プロジェクト

地域経済活性化プロジェクト

施策を横断的に展開し、まちの将来像の実現に向けて取り組みます



分野別計画（まちづくりの基本方針）

◆ 分野別計画

○まちの将来像の実現に向けて、5つの基本方針(分野)に対応した31の施策を推進します。

将来像	まちづくりの基本方針	基本施策
共に築く希望の未来しあわせ感じる元気まち	<p>1 生活環境</p> <p>人と自然が共生した、安全で住みよい生活環境のまち</p>	<p>1-1 身近な安全</p> <p>1-2 防災・減災</p> <p>1-3 消防・救急</p> <p>1-4 環境美化・衛生</p> <p>1-5 循環型社会形成</p> <p>1-6 住環境</p> <p>1-7 公共交通</p> <p>1-8 道路</p> <p>1-9 上下水道</p> <p>1-10 地域情報化</p>
	<p>2 健康福祉</p> <p>思いやり、支え合い、みんなが元気で暮らせる健康のまち</p>	<p>2-1 健康づくり</p> <p>2-2 地域医療</p> <p>2-3 子ども子育て</p> <p>2-4 地域福祉</p> <p>2-5 高齢者福祉</p> <p>2-6 障がい者(児)福祉</p>
	<p>3 教育文化</p> <p>豊かな心を育み、生きがいを感じる学びのまち</p>	<p>3-1 学校教育</p> <p>3-2 社会教育</p> <p>3-3 芸術文化</p> <p>3-4 スポーツ</p> <p>3-5 民族文化</p> <p>3-6 人権</p>
	<p>4 経済産業</p> <p>魅力と活力にあふれ、賑わいが生まれる産業のまち</p>	<p>4-1 産業連携・雇用</p> <p>4-2 港湾</p> <p>4-3 商工業</p> <p>4-4 観光</p> <p>4-5 農林業</p> <p>4-6 水産業</p>
	<p>5 地域自治</p> <p>共に生き共に創る、町民主役のまち</p>	<p>5-1 地域活動</p> <p>5-2 交流・連携</p> <p>5-3 行財政運営</p>

◆ 重点プロジェクト

○総論で導き出した重点課題「人口減少の抑制・地域経済の活性化」を解決するため、分野別計画から重点的に取り組むべき施策を抽出・再編し、2つの柱と8つの個別施策からなる重点プロジェクトとして新たに位置付けます。

重点プロジェクト①		人口減少抑制プロジェクト	
【内容】 ○人口減少を抑制し、定住人口を維持し続けるための対策を推進します。 ○子育て環境の充実や健康寿命の延伸による自然減の抑制、移住定住の促進による社会減の抑制、誰もが快適で安心して暮らせる住環境の向上、住む人の絆づくりに取り組みます。		【個別施策】 ①-(1)切れ目ない子育て支援の強化 ①-(2)スポーツを通じた健康増進と疾病予防の推進 ①-(3)人材還流と白老暮らしの推進 ①-(4)安全で住みよい住環境の形成 ①-(5)地域の絆づくり	
【プロジェクト指標】			
総人口	令和9年で13,815人を下回らない	まちの愛着	(現状)57.8%→(目標)70%
完全移住者数	(現状)31人/年→(目標)40人/年	居住評価	(現状)35.9%→(目標)50%
		定住意向	(現状)54.3%→(目標)70%

重点プロジェクト②		地域経済活性化プロジェクト	
【内容】 ○仕事人が人を呼び、人が仕事を呼び込む好循環の確立を目指します。 ○地域特性を生かした地場産業の振興、若い世代を中心とした魅力ある仕事の創出、労働力の確保に向けた取り組みを推進します。 ○ウポポイを起爆剤とした観光振興、交流人口の拡大を目指します。		【個別施策】 ②-(1)地域産業の競争力強化 ②-(2)安定した雇用の確保 ②-(3)ウポポイ等を活かした観光振興と交流人口の拡大	
【プロジェクト指標】			
納税義務者数 1人当たりの 課税対象所得	(現状)2,401千円 →(目標)2,581千円	観光入込客数	(現状)1,505千人 →(目標)3,500千人

◆ 計画の実現に向けて

(1)計画の推進体制

- ・広報誌やホームページ等の広報手段を通じて、町民等との情報共有に努めます。
- ・庁内プロジェクトチームを適宜設置し、重点プロジェクトを推進します。
- ・総合計画審議会を評価機関に位置付け、各種施策の評価とともに計画の進行管理を行います。

(2)施策指標による進捗管理

- ・目標と成果を可視化するため、施策ごとに指標を設定します。なお、時代の趨勢を見ながら、必要に応じて適宜指標等を見直し、軌道修正を図ります。

(3)計画推進に向けた行政経営

- ・「白老町行政改革大綱」及び「白老町財政健全化プラン」の2つの計画を踏まえながら、限られた行政資源の最適配分・有効活用に努め、総合計画実施計画を推進していきます。